

## 富士大学 中期目標・中期計画（教育・研究・地域社会への貢献等）

中期目標・中期計画の期間 令和3年度～令和7年度

### （富士大学の目的）

富士大学は、広く知識を世界にもとめ、深遠なる学術の研究と心身ともに健全なる人材の育成を期し人類の平和と地域の発展に寄与することを目的とする。

### （富士大学の使命）

富士大学の使命は、次の3つである。

1. 地域の教育水準を高めるために、高等教育機会を地域の人々に提供する。
2. 建学の精神・教育目的に基づき、地域社会の発展を担う経済・経営人材を育成する。
3. 生涯学習の機会を地域の人々に提供し、また、大学の研究成果を地域に還元し、地域行政等への助言・協力、まちづくり支援活動、ボランティア活動、スポーツ振興などを通じて地域社会に貢献する。

### （富士大学の教育目的）

#### 経済学部

建学の精神に基づき、次に掲げる人材を育成することを教育目的とする。

1. 専門性と同時に教養を身につけ、国際感覚と語学力、情報処理能力を備えた人材（地球的・国際的視野の涵養）
2. 実践的な専門知識、豊かな創造性、柔軟な問題解決能力を備えた人材（創造的・実践的知性の開発）
3. 地域社会に貢献できる人材（自発的・奉仕的精神の体得）

#### 経済学科

経済のしくみと政策、歴史に関する専門知識を体系的に修得するとともに、その他今日の諸課題を考察するのに必要な経営、法律、情報などの幅広い知識と柔軟な問題解決能力をもった人材を育成することを教育目的とする。

#### 経営法学科

経営学・会計学および企業関連法規についての専門知識を修得するとともに、経済、情報処理など幅広い分野の知識を身につけることにより、企業・団体の円滑な経営管理に資することができる人材を育成することを教育目的とする。

#### 教養教育科

学問の共通的な基盤となる知識・技能等の修得を図るとともに、進展する国際化社会において信頼される、豊かな人間性と、広い視野から物事を考えようとする態度を育てることを教育目的とする。

#### キャリア教育

社会を逞しく生き抜くための〈がんばり力〉（社会を正しく生き抜く力、学んだ知識を活用する力、社会の一員として「共生」する力）を備えた人材を育成することを教育目的とする。

### （富士大学大学院の目的）

大学院は、富士大学の目的使命に則り、学術理論およびその応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

### （富士大学大学院の教育目的）

大学院は、広い視野に立って深い学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を有する職業等に必要の高度な能力を養い、次に掲げる人材を養成することを目的とする。

1. 高度に専門的な知識を有する実務者
2. 公的資格を有する専門職業人
3. 研究者として専門研究に従事しうる人材

## 1. 教育

中期目標	中期計画（中期目標を達成するためにとるべき措置）
<p>【学士課程】</p> <p>(1) 教育改革</p> <p>① 学士課程教育の質の向上を図り、豊かな教養と実践的な専門知識、柔軟な問題解決力を具えた、地域社会の発展に貢献できる経済・経営人材を育成する。</p>	<p>【学士課程】</p> <p>(1) 教育改革</p> <p>① 学修時間の増加・確保および単位制度の実質化を図る。</p> <p>② 教育方法を工夫・改善し、学生の主体的な学びを促進するとともに、教育資源を効果的・効率的に活用する教育環境の整備・充実を図る。</p> <p>(i) 教育方法等の研究を行う。また、授業科目の目的や内容に応じた多様な能動的授業を充実させる。</p> <p>(ii) ICT 等の効果的な利用を促進する。また、遠隔授業の経験を生かし、予習的課題の提示など、授業科目の特性に応じた多様で効果的な授業の展開を図る。</p> <p>③ アセスメント・ポリシーに基づき学修成果を点検し、三つのポリシーに則した教育活動の有効性を検証する。また、その結果を教育の改善に役立てる。</p> <p>④ 選ばれる大学を目指し、カリキュラムを改善する。</p> <p>⑤ 地域貢献人材育成プログラムの充実を図る。</p> <p>⑥ 「地域」「環境」をキーワードにした教育を推進する。</p> <p>⑦ 学生が充実した大学生活を送れるよう、初年次教育を実施する。</p> <p>(i) 新入生ができるだけ早く大学生活になじめるように指導を行う。</p> <p>・新入生学外オリエンテーション、教養演習旅行、大学諸行事への参加奨励、地域理解を図るための指導、ゼミ生との面談</p> <p>(ii) 新入生の学修意欲を向上させるための指導を行う。</p> <p>(iii) 基礎力向上のための指導を行う。</p> <p>・「基礎学力テスト」の結果に基づく授業</p> <p>・小論文指導の実施</p> <p>(iv) 教養演習において研究報告書の作成・発表・討論等の指導を行う。</p> <p>(v) 初年次教育のための基礎資料として、「初年次セミナーワークブック」を作成し、新入生に配付の上、随時使用する。</p> <p>⑧ 学生が専門教育の基盤となる知識や技能を修得するとともに、人間としての在り方や生き方について考察を深められるよう、教養教育を充実させる。</p> <p>(i) 各授業において、文化・社会・自然および地域・環境に関する知識の理解を図る。また、知的活動の基盤であり、論理的思考力、判断力、表現力の涵養に大きく関わる日本語力、論文力の育成を図る。</p> <p>(ii) 人間性育成、社会性育成等の観点から、部活動（スポーツ活動・学友会活動）・サークル活動・ボランティア活動等の充実を図る。</p> <p>⑨ 社会を正しく生き抜く力、学んだ知識を活用する力、社会の一員として共生する力を育成し、社会に踏み出す「がんばり力」を身につけさせる。</p> <p>(i) 「キャリア形成論Ⅰ～Ⅳ」等、キャリア教育のシラバスを改善し、1年次から4年次まで採用時期、雇用情勢に応じて、系統的・計画的に授業を展開する。</p>

<p>② 本学の建学の精神の実現と教育目的の達成を図るため、アドミッション・ポリシーに沿った入学者の受入れを行う。なお、入学者受入れ数の目標を以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学部の入学者数 192 人</li> <li>・女子の入学者数 40 人以上</li> <li>・経済学科の入学定員充足</li> </ul>	<p>(ii) 女性の活躍を支援する講座「女子学生のためのキャリア形成論」をキャリア形成科目として連動させる。</p> <p>(iii) 岩手労働局の支援による労働関係法セミナーを開催する。</p> <p>(iv) 目標達成評価として、目標に対し、教育成果がどのように上がっているかを下記の観点から評価し、キャリア教育の改善を図る。</p> <p>A. 目標達成に向けての全体評価・学生の成長や変容に関する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動としてのキャリア教育全体の評価</li> <li>・キャリア教育の管理運営に関する評価</li> </ul> <p>B. キャリア形成過程の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年終了時の評価</li> <li>・卒業時の評価（就職率、希望進路達成率(公務員・大企業率等)</li> </ul> <p>C. 卒業後の追跡調査による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の離職率・がんばり力、企業の求める人材、大学教育への要望に関する企業アンケートを実施する。</li> </ul> <p>⑩ FD を推進し、授業の内容と方法の改善を図る。</p> <p>(i) 「学生による授業評価アンケート要項」「学生による授業評価アンケート要領」に基づいて、毎期 1 教員 3 科目でアンケートを実施し、集計結果を参考に授業改善報告書を提出し、参考例掲示・特徴分析・学長講評を行う。</p> <p>(ii) 公開授業・授業検討会（議事録作成）の参加率を高め、その内容の向上を図る。</p> <p>(iii) 公開授業、授業検討会、その他授業改善に資する実践例を基礎に FD 全員研修会を開催し、AL 型授業への転換を促す。</p> <p>(iv) 新任教員研修会を実施する。</p> <p>(v) 富士大学教員研究業績等報告書の毎期データ更新、富士大学教員研究業績等総括調査票の毎年度更新を行う。</p> <p>(vi) 学生による授業評価アンケート結果に基づき優秀授業を選出し、担当教員を表彰する。</p> <p>⑪ 教職課程を通じて、生涯、学び続ける教員を育成する。</p> <p>(i) 教育課程履修に係るガイダンスを充実する。</p> <p>(ii) 教育課程の履修モデルを示す。</p> <p>(iii) 教育実習時の訪問指導を実施する。</p> <p>(iv) 教員採用試験対策講座を充実する。</p> <p>(v) (iv)を補強する個別指導を充実する。</p> <p>① アドミッション・ポリシーに基づき、総合型選抜、社会人選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜のほか、優秀な学生を確保するため、志願者の学力、資格取得、地域に貢献しようとする意欲等を積極的に評価し授業料の免除等を行う特別選抜（学力優秀者特待生、資格取得者特待生、地域高大連携校、商業科教員養成特待生）を実施する。</p> <p>② 多様なメディアを通して、本学での学びの魅力と本学が求める学生像を周知する。</p>
---	--

<p>(2) 学生支援</p> <p>① 学修支援および授業支援体制を改善し、体制の充実を図る。</p> <p>② 学修指導の改善に向けてアンケート調査等の分析結果をフィードバックし、その後の改善に活用する。</p> <p>③ 学生が充実した生活を送ることができるようにし、中途退学者の減少を図る。</p> <p>④ 進路相談・助言の充実を図り、高い就職率の維持と同時に、希望進路達成率の向上を図る。</p>	<p>(2) 学生支援</p> <p>① 学生への学修および授業支援について、学生の意見・要望を踏まえ、支援の方針・計画・実施体制の充実を図る。</p> <p>② 学修意欲の向上を図るための多様な教授方法による授業の改善・工夫について、FD委員会、教育方法開発室と連携して支援する。</p> <p>③ TA・SAの活用に際し、事前・事後の研修体制を確立した上で、学修および教員の教育活動を支援する。</p> <p>④ GPAを活用して学生の履修指導を改善し、学生の学修支援を充実させる。</p> <p>① 学生調査等の分析結果を踏まえ、これまでの支援体制を検証しつつ、学修および授業支援体制の更なる改善を進める。</p> <p>② 成績評価の割合を提示することにより偏った評価をなくす。</p> <p>③ これまで構築した学生への学修および授業支援に対する学生の意見等を汲上げる仕組みを検証し、学修および授業支援の体制の更なる改善を図る。</p> <p>① 出欠・受講態度・諸手続き等の日常生活における学生のモラル向上を図る。</p> <p>② 学生相談室・保健室・ゼミ・部活・父母等および外部と連携し、心身の健康や生活に関する相談体制を充実・強化する。</p> <p>③ 学友会の育成・指導力強化を図るためのリーダー研修を行う。</p> <p>④ 福祉・ボランティア研究センターと連携し、学生のボランティア活動を支援する。</p> <p>⑤ 寮務委員会を定例化し、学生寮の自律的な運営を支援する。</p> <p>⑥ 各種調査を踏まえた指導改善を行い、中途退学者の減少に努める。</p> <p>⑦ 学生サービスに関する日常業務の円滑化を図る。</p> <p>⑧ 各種研修への派遣やSD研修を充実させ、学生部・学生委員会職員の実務能力向上に努める。</p> <p>① 学生の就職活動を支援する。</p> <p>(i) 資格取得支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日商簿記・情報系検定試験対策講座を開設。また、講座開設を補強するため個別指導を行う。</li> <li>・その他、就職に関わる資格取得の支援をする。</li> </ul> <p>(ii) 就職活動に向けた特別支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員採用試験対策講座を開設する。また、講座開設を補強するため個別指導や模擬試験を行う。</li> <li>・公務員試験合格者を増やすため個別受験指導や模擬試験を行う。公安関係公務員については、説明会も開催する。</li> <li>・企業研究会(人事担当者による会社説明会)を開催する。</li> <li>・体育系学生に特化した採用説明会を開催する。</li> <li>・ウェブ選考・面接の個別指導を行う。</li> <li>・一般職業適性検査(GATB)を実施する。</li> <li>・個別の就職相談を実施する。</li> <li>・エントリー・シート、履歴書等の個別指導を行う。</li> </ul>
--	--

<p>(3) 異文化交流</p> <p>① 学生の実践的語学力の涵養と異文化理解教育の推進を図る。</p> <p>② 地域社会と連携し異文化交流の多様な取組みを行う。</p> <p>③ 海外協定先大学との学術交流・留学生交換を推進する。</p> <p>(4) いわて高等教育コンソーシアム</p> <p>① 単位互換制度に基づき連携校との単位互換を進める。</p> <p>② 高校生に高度な学習の機会を提供する事業、高大連携「ウィンター・セッション」において、本学での受講者 40 人を確保する。</p> <p>(5) 教育環境（施設・設備）の整備</p> <p>① 学生の意見・要望をとり入れながら、学修環境の整備を進める。</p> <p><b>【修士課程】</b></p> <p>① 三つのポリシーを起点とする教育の内部質保証システムを機能させ、地域社</p>	<p>(3) 異文化交流</p> <p>① 異文化理解に寄与する科目を開講するとともに、語学開放講座を開催する。</p> <p>① 花巻市・岩手県の国際交流フェアに参画し、本学留学生と地域住民・小中高生との交流を図る。</p> <p>① 海外からの留学生受入れを継続するとともに、本学からの短期海外訪問、長期留学生の拡大を図る。協定大学との学術交流の拡大を図る。</p> <p>② 外国人留学生の留学目的が達成されるよう、学修・生活を支援する。</p> <p>(4) いわて高等教育コンソーシアム</p> <p>① 単位互換制度についての情報提供および積極的利用を、アイアシスタント、履修ガイダンス等を通じて呼びかける。</p> <p>① 地域貢献人材の育成をテーマとし、高校生が興味関心を抱く講義内容のプログラムを設定する。</p> <p>② 本学におけるウィンター・セッションのリーフレットを作成し、県内の高校に配布する。 ※②は岩手県教育委員会の許可が必要。</p> <p>(5) 教育環境（施設・設備）の整備</p> <p>① 施設・設備に関する学生からの意見・要望を把握し、整備充実に努める。また、老朽化した施設・設備について、年度計画のもとに整備する。</p> <p>② 大学図書館の春休み期間中の開館日を増やすとともに、ノート PC とタブレット端末の台数を増やし ICT を活用した学修環境整備を進める。</p> <p>③ 情報環境整備を進め、ICT の効率的・効果的な利用の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報処理実習室の機器更新</li> <li>・ 普通教室の ICT 環境の整備</li> <li>・ 学内通信環境の整備（ネットワーク機器等の更新）</li> <li>・ 基幹サーバの更新</li> </ul> <p><b>【修士課程】</b></p> <p>① アドミッション・ポリシーに応じた入学者選抜方法を点検し実施する。Semester 制導入に対応した入試日程の策定を行う。</p> <p>② 6 つの履修モデルの特徴を明確にし、カリキュラム・ポリシーとの関係性を整理する。</p>
--	--

<p>会の持続的な発展を担う専門的実務者と税務に特化した高度専門職業人および学術研究者を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 公開授業および授業研究会を行い、教育内容・方法の改善を図る。</li> <li>④ 大学院 FD 活動に関連する学術論文を講読し、大学院としての FD 活動に対する理解を深める。</li> <li>⑤ 学修成果を点検しディプロマ・ポリシーに基づいた質保証を行うために、論文等発表会および最終試験を実施する。</li> <li>⑥ 「大学院授業アンケート」「大学院修了者に対する大学院教育・研究環境アンケート」「大学院生に対するアンケート」を実施し、結果を教育改革にフィードバックする。</li> </ul>
---	--

## 2. 研究

中期目標	中期計画（中期目標を達成するためにとるべき措置）
<p>(1) 研究の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 科研費に代表される競争的外部資金獲得の申請を通じ、研究活動を活性化する。(研究支援室)</li> <li>② 地域経済・文化に係る調査、研究を推進する。また、研究成果を公開して社会に還元する。(地域経済文化研究所)</li> <li>③ 地域課題の解決に資する研究を幅広く推進し、地域内企業・経済の発展に寄与する。(地域連携推進センター)</li> </ul>	<p>(1) 研究の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 研究者間のピアレビュー等の取組みを推進する。</li> <li>② 科学研究費申請に関する説明会を開催する。</li> <li>③ 科研費に採択されなかった研究を学内の特別研究費を用いて支援する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域経済・文化に係る調査研究および資料の収集・整理を継続的に行う。</li> <li>② 機関誌『研究年報』を継続的に刊行する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地元自治体・地域企業との共同研究・受託研究を行う。</li> <li>② 花巻型 CCRC 事業に関するプラットフォームを形成し、花巻市への移住・定住推進の研究を進める。</li> <li>③ 地域内における木質バイオマスエネルギーを活用した地域内エコシステムモデル構築事業について、地元自治体・企業等関係団体と連携して研究を推進する。</li> <li>④ SDGs の枠組みを利用した地域内企業の活性化に関する研究を推進する。</li> <li>⑤ 「2050 年温室効果ガスゼロ（カーボンニュートラル）宣言」を受け、地域内のエコシステム構築事業を推進し、キャンパス脱炭素化を進めるとともに、地域の脱炭素化に関する研究を進める。</li> <li>⑥ 他の大学・研究機関との共同研究を行い、地域課題の解決に資する。</li> </ul>

### 3. 地域社会への貢献

中期目標	中期計画（中期目標を達成するためにとるべき措置）
<p>(1) 地域経済文化研究所</p> <p>① 地域生涯学習の推進に寄与する。</p> <p>(2) 地域連携推進センター</p> <p>① 地域行政機関、経済団体等との連携・交流を通じて、地域経済の振興・活性化に貢献する。</p> <p>② これまでの実績を踏まえ、学内体制の再構築を検討する。</p> <p>(3) 福祉・ボランティア研究センター</p> <p>① 福祉・ボランティアの実践支援を継続するとともに、地域課題解決に係る活動を奨励し、自発的・奉仕的精神を体得した人材の育成に寄与する。</p> <p>(4) スポーツ振興アカデミー</p> <p>① 地域におけるスポーツ振興拠点を目指す。</p> <p>② スポーツを通じて地域との人的交流を図る。</p> <p>③ 地域スポーツの競技力向上に寄与する。</p> <p>④ スポーツの発展、振興に寄与する。</p>	<p>(1) 地域経済文化研究所</p> <p>① 花巻・北上市民セミナーを継続的に行う。</p> <p>② 高齢者向け生涯学習講座を継続的に行う。</p> <p>(2) 地域連携推進センター</p> <p>① 地域の行政機関、経済団体等と包括的連携協定を締結し、地域経済活性化プロジェクトの計画・実行を図る。</p> <p>② 学内の地域研究を推進し、成果を社会に還元する。</p> <p>③ 自治体および地元企業等と協議し、リスクマネジメント体制の構築や社会人教育、観光産業人材育成、地域防災人材育成などのプログラムを開発する。</p> <p>④ 自治体および地元企業等と連携した寄附講座や企業等への出前講義、また、海外への情報発信などを実現する。</p> <p>① 地域の要請に応え、地域行事やワークショップなどへの参加を推進する。</p> <p>② 地域が求める人材を育成するため、地域貢献活動に学生を参加させ、また、その授業形態等を検討する。</p> <p>(3) 福祉・ボランティア研究センター</p> <p>① 「体験に機会を与え学生のボランティア精神を育む」を目標とし以下のボランティアを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型ボランティア（外部依頼型を主とする）（近郊一次産業連携型、介護福祉型等）</li> <li>・学外ボランティア（遠方の連携協定地域型）</li> <li>・災害ボランティア</li> </ul> <p>(4) スポーツ振興アカデミー</p> <p>① スポーツ施設をスポーツ、レクリエーションの場として市民に開放し、スポーツ振興の拠点づくりを進める。</p> <p>① スポーツ教室の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部指導者が学生とともに地域の子供たちを対象とした競技練習会を行い、人的交流を図る。</li> </ul> <p>① 指導者の派遣（合同練習会）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部指導者が地域の中学校、高校またはスポーツクラブの依頼に基づき、出張指導を行う。また、要請によって学生アスリートとの合同練習会を行い、地域のスポーツ競技力向上を図る。</li> </ul> <p>① 協働（委託）事業の実施</p>

<p>⑤ スポーツの科学研究の成果を地域に還元する。</p> <p>(5) 図書館学</p> <p>① 学部の「図書館学講座」における図書館情報学の教育・研究・専門職員の養成を通して、地域における教育・文化等に寄与する。</p> <p>② 地域自治体の図書館行政・図書館運営に関し、担当教員を派遣し、その専門的アドバイス等を通じて各自治体の図書館計画・運営などの行政課題解決に寄与する。</p> <p>(6) 全国高校生童話大賞</p> <p>① 全国の高校生から作品を募り、高校生の創作意欲を醸成し、感性豊かな表現力を啓発していく。</p> <p>② 応募作品の表彰を通してイーハトーブ花巻を全国および地域に発信する。</p> <p>(7) 高大連携</p> <p>① 高校生の大学進学意識の向上に資することと、併せて高校生に本学の特徴を十分に理解してもらうことを目標に、高大連携事業を一層充実させる。</p>	<p>・県または市町村、市町村体育協会からの委託を受け、スポーツの発展と振興に寄与する事業を実施する。</p> <p>① スポーツ医科学セミナーの開催</p> <p>・最新のスポーツ医科学研究を学ぶ公開セミナーを開催する。</p> <p>(5) 図書館学</p> <p>① 講座の学生および令和元年度まで開講していた司書講習の社会人講習生に対し、岩手県内を中心とした東北六県の図書館職員採用情報を提供する。また、司書として働いている卒業生・講習修了生に図書館研究団体への加入を働きかけ、ネットワークを整備する。</p> <p>① 各自治体の市町村長部局および教育委員会からの要望に沿った支援・アドバイスを行う。</p> <p>・図書館関係の各種委員会等の専門委員としての参加要請に積極的に応える。</p> <p>(6) 全国高校生童話大賞</p> <p>① 主催する本学と花巻市および花巻市教育委員会で実行委員会を構成する。</p> <p>② 「宮沢賢治」に係る諸事業を通して、市民の理解と支援、交流を図る。</p> <p>③ 作品応募の周知を図るため、報道機関と連携を深め広報活動を展開する。</p> <p>① 受賞者を招待し、表彰式を開催する。</p> <p>② 金賞作品の朗読やアトラクション(郷土芸能)を通して、コンクールの意義とイーハトーブ花巻を全国および地域に発信する。</p> <p>(7) 高大連携</p> <p>① 高等学校に対する「出前講義」を実施する。</p>
--	---

#### 4. 自己点検・評価

中期目標	中期計画（中期目標を達成するためにとるべき措置）
<p>① 定期的に教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表し、教育研究水準を向上させる。</p> <p>② 中期的な計画等に基づき、大学全体の質の向上を図る。</p> <p>③ 教員評価を実施し、教育研究の質の向上、活性化を図る。</p>	<p>① 7年に1度、自己点検評価書を作成して認証評価を受審するとともに、認証評価受審の3年後および6年後に自主的な自己点検・評価を実施し、その結果をもとに教育研究活動等の改善・向上を図る。</p> <p>なお、今後の自己点検・評価の予定は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度 自己点検評価報告書作成、認証評価受審</li> <li>・令和6年度 自己点検・評価実施</li> <li>・令和9年度 自己点検・評価実施</li> <li>・令和10年度 自己点検評価書作成、認証評価受審</li> </ul> <p>① 中期的な計画の単年度の計画の達成状況を点検・評価し、次年度の計画に反映させる。</p> <p>① 「富士大学教員評価指針」に基づき、毎年、教員の教育研究等の活動に係る評価を実施する。</p>